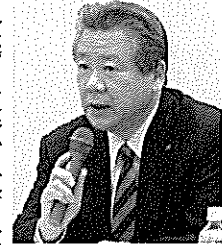


日冷倉が年末記者会開催、トラック待機時間問題の進捗を報告

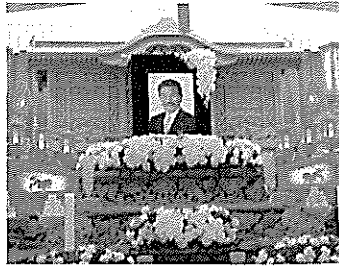


安全委員長）、大石竜司氏（税制補助金特別委員長）らが出席。

冒頭あいさつで、大谷会長がことしの冷蔵倉庫業界の概況について「荷動きなどの動向は全体としてまずまず堅調に推移しているのではないかと思う。首都圏では年初低位だった在庫水準も春までには帳尻が合ってきて、ここへきて東京、川崎などは満庫状態。関西も肉類を中心に順調だ」と述べた。また、「ことしは長年見直されていなかった業務マニュアルを改訂し、冷蔵倉庫業務標準マニュアルとして全国の会員に配布したほか、トラックの待機時間問題などへの対応として、『トラック運送業における適正取引推進、生産性向上及び長時間労働抑制に向けた冷蔵倉庫の自主行動計画ならびに改善協力要請について』という冊子を作成した」と話し、協会の取り組みについて紹介した。

次いで、河合総務委員長や西願業務委員長などから各委員会の計画および進捗が報告され、閉会となった。

阿部徳次氏の葬儀・告別式に多数の関係者が参列、故人をしのぶ



4日に逝去した阿部徳次氏（㊦ミート・コンパニオン取締役会長、㊦アグリス・ワン取締役会長、77歳）の通夜が10日に、葬儀・告別式が11日にそれぞれ東京・立川市のセレモア立川会館で㊦ミート・コンパニオンと阿部家の合同葬にてしめやかに執り行われた。両日ともに多数の関係者が参列し、故人をしのんだ。

葬儀委員長である㊦ミート・コンパニオンの阿部昌史社長は「故人は家族葬を希望していたが、私たち家族の父であるのと同時に会社の父でもあるので、こうして皆さまにご参列いただいた。故人は家族思いであり、非常に優しい人であった。社員もお付き合いのある皆さまも、故人の人柄が大好きで、これだけ多くの方に集まっていたことができたと思っている。これからも創始者である故人の意志をしっかり引き継ぎ、前を向いてやっていく」と謝辞を述べた。

また、㊦ニイチクの山田彰男社長は弔辞で、故人に対し「義理の兄であり、業界の師匠であった。本当に優しく、病床にあっても常に熱く語り、最後まで最高の笑顔をみせてくれた」と、幼い頃からの思い出なども交えて振り返った。